女性活躍推進フォーラム 第2・3回

ファシリテーターの重要性など学ぶ

立川美夏子氏の2セミナーを受講

◀セミナーを受講する参加者

人材育成委員会が主催する女性活躍推進フォーラムの第2回（10月28日）と3回（11月25日）がオンラインで開かれ、会員企業19社から女性正規社員31人が参加した。

第2回は6チームのリーダーが初回の総括を行った後、チーム名を発表した（別表）。独自のチーム名は、それぞれが取り組む企画主題とも連動している。

講師の立川美夏子氏

司会進行は「日直制」で

また今回から、司会進行を各グループで担当する「日直制」を導入し、委員と協働してフォーラムを進めていくこととなった。日常業務の中ではなかなか体験できない場面を提供していきたい、という委員会の意向が反映された。

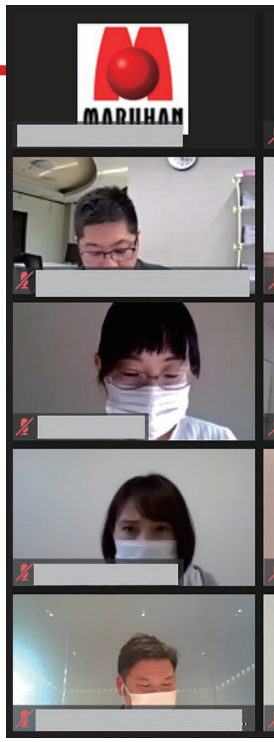
第一部のフォーラム3つの目的の1つ「実務の後押し」となるセミナーでは、立川美夏子氏（㈱エンタテインメントビジネス総合研究所）が「ファシリテーション～説明する力と話をまとめる力～」と題し、講演した。立川氏は、「話をまとめるファシリテーションを行う人を『ファシリテーター』というが、会議の進行役としてその場を俯瞰して見ることが必要で、質問力、要約力、観察力という3つの力が必要とされる。この3つの力を使い、中立の立場で臨み、参加者全員で確認したゴールに向けてポジティブ、ネガティブいずれの意見もその場に出していけるような安心感と信頼感を作り出すことがその役割」と説明、組織につきものの会議は、ファシリテーター次第でその質が大きく変わることを強調した。講義の後半ではグループに分かれてファシリテーターを体験した。

第二部ではブレークアウト機能を使用したグループディスカッションが行われた。「企画書」のフォーマットのうち、提案議題、その目的、背景（現状）の3点について、意見を出し合った。企画作成にあたり、フォーラム以外での打ち合わせには引き続きビジネス用SNSを使い、すべてオンラインで練り上げていくことが再確認された。最後に羽山雄介副委員長が、「いよいよ本格的に企画の段階に入ってきましたが、企画策定でまず大事な『目的』を明確にして、取り組む課題が持つ背景を探り、対象となるターゲットに対して女性活躍というポイントがきちんと繋がっているかどうか、ポイントをぶらさずがんばっていただきたいと思います」とあいさつした。

対処能力向上へ、「インバスケット思考」体験

第3回はDグループ「ナチュラルウーマン」が日直を務め、フォーラムの進行を行った。今回も引き続き、立川氏を講師に迎え「インバスケット思考～究極の判断力を身につける!!～」と題したセミナーが行われた

立川氏は、1950年代のアメ



参加者（順不同、敬称略、㈱略）氏名冒頭〇がリーダー

MAVIE＝坂本佳子(ＡＢＣ)、滝田沙奈(日拓ホーム)、井上理絵(マルハン)、宗廣由佳(マンドレ)、光明院愛(メッセ)、〇杉水流詩織(ユーコー)

チームKP＝古謝杏奈(オータ)、相星千明(玉屋)、〇竹林千遥(ピーアークホールディングス)、山藤奈巳(プローバ)、大橋由華子(マルハン)、

Ctube＝知花綾乃(新富商事)、後藤絵梨(善都)、〇長谷川瑠美(ＮＥＸＵＳ)、佐藤琉菜(平成観光)、多々納眞衣(安田屋)

ナチュラルウーマン＝宮下真林(アサヒディード)、藤原今日子(玉屋)、丸山優子(西の丸)、〇山田佳南(平成観光)、野田侑希(マルハン)、

E-girls＝〇徳永成美(新富商事)、横井千夏(善都)、堀友梨(ダイコク電機)、新沼佑莉(メッセ)、松本菜紀(ユーコー)

寿司レディ＝田口佳澄(オータ)、上原佳奈恵(西の丸)、〇江口彩音(日拓ホーム)、遠藤瞳(ニラク)、君島和(安田屋)

リカで始まった「インバスケット思考」を、限られた時間や条件の中で同時多発的に発生するアクシデントを解決・処理していく思考方法だと説明。

発生している問題を重要度と緊急度のマトリクスに置き、すぐにやるべき重要度の高いものから、後で対応しても良い事象までの優先順位を付けていくことで、問題への対処能力が向上するという。

受講者は提示された3つのルール、絶対的な正解はないと理解する（各自が置かれた状態、社内ルール、地域環境などで優先順位は変化する）、主人公になりきって取り組む、時間を意識することなどを知識としてインプットしたうえでインバスケット思考を体験した。インバスケット思考を続けていくことで、優先順位決定力と問題解決力、判断力が磨かれ、より速やかで客観的・合理的な判断が可能となるとした。追われる仕事から追う仕事作りへと思考が変化していくという。

休憩をはさみグループディスカッションに移り、この1か月の活動をもとに企画の骨子を練り上げた。

羽山副委員長が「折り返しを過ぎましたが、次回のプチプレゼンではぜひ本番を想定した発表をお願いします。どのグループもみなさんの思いが詰まっていると思いますが、それを初めて聞いた人はどう感じるだろうか、伝わるだろうかと想像しながら、グループのみなさんで協力しながら課題を進めていただければと思います」と締めくくりのあいさつをした。

今後の予定

第4回　令和3年12月21日(火)
セミナー「プレゼンテーションのポイント」、グループディスカッション

第5回　令和4年2月24日(金)
グループでのプレゼンテーション準備の後、企画発表。表彰式、閉会式

社会貢献・環境対策委員会

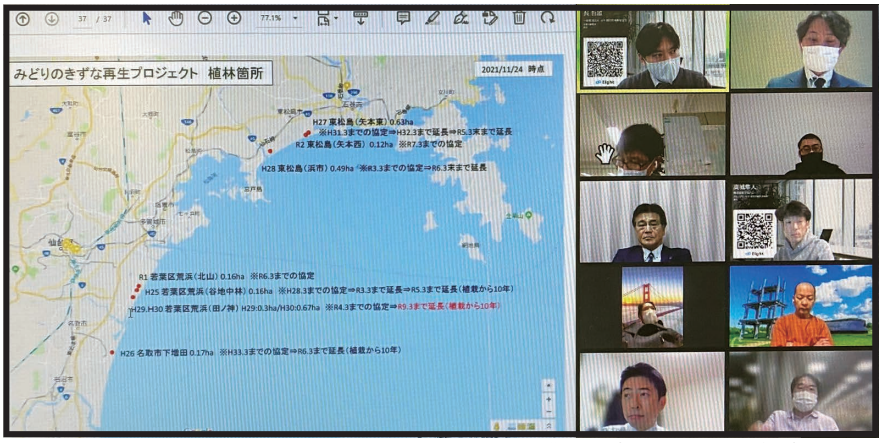
11月24日
本部会議室（ウェブ会議）
出席委員等13人

来期の事業計画を審議

第1回ＳＤＧｓＰＴの打ち合わせ内容が報告された。同ＰＴには社会貢献・環境対策委員会から知念理事、福地委員長、藤田委員ら3人がメンバーに参加している（7ページに第1回ＳＤＧｓＰＴ）。

来期の事業計画を審議した。基本的には従来から続いている活動を継続・発展させていくとして、防災対策、クリーンデー、環境対策植林、認知症予防などが挙がっている。

受動喫煙対策関連で、本誌来月号（1月号）から3回、公衆喫煙所をテーマに連載を始めることが報告された。記事は社会貢献・環境対策委員会が作成、ＪＴ（日本たばこ産業）が編集協力する。また、日遊協ウェブサイトに掲載されている「分煙マニュアル」ページへの10月のアクセス数が報告された。全体合計３８８件で9月より34件下がった。分煙マニュアル自体には大きな変化は見られなかった。改正健康増進法に関するＱ＆Ａは５７８件で、こちらも減少した。



来期の事業計画などを審議した社会貢献・環境対策委員会